

第三者評価の受審実績	平成 24 年度		
取材の対象年度	平成 24 年度	評価手法	利用者調査とサービス項目を中心とした評価

【取材メモ】



取材の視点

- ・第三者評価受審の目的、経緯
- ・事業評価（自己評価）のプロセスで得られた気づき
- ・利用者調査、職員の自己評価及び評価機関による評価の結果から得られた気づき
- ・改善に向けた取り組みとその成果、など

■事業所の特色

当法人は、市内を中心とする 4 か所の拠点で 7 つの事業と地域包括支援センター 1 か所の運営を担っています。当事業所は、東京都の高齢者向け優良賃貸住宅の 1 階にあります。市が都より 1 階部分を借り受け、当法人が市の指定管理者として、平成 3 年よりデイサービス事業を行っています。入浴設備、厨房は備えられていません。利用者の昼食は、当法人の中核施設である近隣の特別養護老人ホームの厨房で調理された給食を職員が車で運んでいます。

入浴設備がないことから、事業目的にも謳われているとおり、介護を必要とする程度が比較的軽い利用者に対して、陶芸や生け花、絵手紙、パッチワークなど多彩な趣味活動と体操、外出行事などのアクティビティを中心としたサービスを提供しています。

介護予防サービスの視点から、ストレッチ体操や、すぐ横を流れる黒目川沿いの遊歩道など周辺の散策を通して運動をする機会を増やしています。また、3 人のマッサージ師と曜日ごとに契約を結んでおり、午前中、希望する利用者は機能訓練の一環としてマッサージを受けることができる点も当事業所の特徴の一つになっています。

事業所では、地域の小学校や幼稚園、保育園、ボランティアとの関わりをデイサービスの活動にとって欠かせないものと位置づけ、地域の活力を積極的に取り込むことによって、利用者の生活の活性化につなげています。

また、当法人では、スケールメリットを活かした職員研修の試みとして、各事業所の職員が法人内の別の事業所の仕事を体験し、その中で得られた気づきをそれぞれの業務に活かす取り組みを行っています。当事業所の職員にとっては、特養での入浴介助の場面に立ち会う中で技術を学んだり、他のデイサービスの特徴を知ることによって、自分たちの強みを改めて認識する機会になっていると言えます。